

— 茨城県土浦市 —

糸買場遺跡（第2次調査）

—— 集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

2016

土浦市教育委員会

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川といった自然環境に恵まれた都市です。貝塚や古墳など数多くの遺跡が立地し、古くから人々の暮らしが営まれてきました。これらの遺跡は、昔の生活や文化を現代の私たちに伝えてくれる貴重な遺産といえます。このような貴重な文化遺産を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な任務であり、郷土の発展のためにも大切なことあります。

この度、市内木田余東台二丁目地内に所在する櫻買場遺跡において開発行為に伴う発掘調査が行われました。学術的な研究資料としてはもちろんのこと、土浦市の歴史・文化の究明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係者の皆様のご協力とご支援に対し心から厚く御礼を申し上げます。

平成28年9月

土浦市教育委員会
教育長 井坂 隆

例　　言

1. 本書は、茨城県土浦市木田余東台二丁目3857外における、個人事業者が大東建託株式会社に委託施工する集合住宅建築に伴う稲買場遺跡第2次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、個人事業者の小島高氏の委託を受け、有限会社日考研茨城（代表取締役小川和博）が発掘調査支援を行い、土浦市教育委員会が直営で行った。調査期間は平成27（2015）年7月11日～28日、調査面積は約370m²である。
3. 発掘調査・整理作業・報告書作成は、一木絵理（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当し、比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が補助した。
4. 調査参加者【所属は平成27年度当時】
一木絵理・比毛君男・黒澤春彦（上高津貝塚ふるさと歴史の広場 調査普及係 学芸員）、宮窪ひろみ（上高津貝塚ふるさと歴史の広場 社会教育指導員）、鈴木隆浩（土浦市教育委員会文化課文化財係）、石川雅啓・大久保由紀子・大坪美知子・窪田恵一・高野敏江・丸岡公子（作業員）
5. 整理作業は、調査終了後の平成27年8月から28年3月まで実施した。作業員は小林圭子・高梨智恵子の2名である。
6. 本遺跡調査に関係する資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。なお遺物・記録図面には「KM2」を遺跡記号として使用している。
7. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、次の方々および諸機関からご助言・ご協力を賜った。記して感謝の意を表したい（敬称略　五十音順）。茨城県教育委員会文化課 小島高 大東建託株式会社

凡　　例

1. 稲買場遺跡第2次調査では遺構面の確認を行った順に竪穴建物に番号を付しており、第1号竪穴建物から第10号竪穴建物まで発見されている。
2. 遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。
竪穴建物：S I 土坑：SK 振乱：K ピット：P
3. 遺構・遺物の実測図中の表記は以下の通りである。
炉・焼土範囲 [] 硬化面：一点鎖線
スス [] 黒色処理（古墳） [] （奈・平） [] 須恵器（断面） []
4. 遺構・遺物の記述は以下を原則とした。
 - (1) 水糸レベルは海拔高度（m）を示す。
 - (2) 遺物番号は本文・挿図・写真図版とも一致する。
 - (3) 遺構全体図は1/200、各遺構の実測図は1/80、遺物実測図は1/3、1/6の縮尺で掲載してスケールで表示した。
 - (4) 遺構の「主軸」は原則カマドを通る軸線とし、主軸方向はその他の遺構の長軸（径）方向とともに、座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N-10°-W）
 - (5) 遺物の観察表の法量は、A：口径、B：底径、C：器高、（ ）が現存値、〔 〕が復元値を表す。胎土の表記は肉眼観察の結果確認できた鉱物のみを記した。
 - (6) 土層や遺物の色調は、『新版標準土色帖』2002年版（小川正忠・竹原秀雄編著 2002 日本色研事業株式会社）を使用した。

目 次

序

例言

凡例

目次 挿図目次 表目次 写真図版目次

第1章 調査経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	6
第1節 調査の概要	6
第2節 遺構と遺物	6
1 壓穴建物	6
2 土坑	24
3 遺構外出土遺物	24
第4章 まとめ	25
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 穂買場遺跡周辺遺跡分布図	4	第12図 第2・8号壓穴建物、第1号土坑実測図	15
第2図 調査区位置図	5	第13図 第2号壓穴建物遺物出土状況	16
第3図 遺構全体図	5	第14図 第2号壓穴建物出土遺物（1）	19
第4図 第1・5号壓穴建物実測図	7	第15図 第2号壓穴建物出土遺物（2）	20
第5図 第1・5号壓穴建物遺物出土状況	8	第16図 第3号壓穴建物出土遺物	21
第6図 第1号壓穴建物出土遺物（1）	10	第17図 第9号壓穴建物出土遺物	22
第7図 第1号壓穴建物出土遺物（2）	12	第18図 第3・6・9・10号壓穴建物実測図	22
第8図 第5号壓穴建物出土遺物	13	第19図 第6号壓穴建物出土遺物	23
第9図 第4号壓穴建物実測図	13	第20図 第10号壓穴建物出土遺物	23
第10図 第4号壓穴建物出土遺物	14	第21図 遺構外出土遺物	24
第11図 第7号壓穴建物実測図	14		

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	4
第2表	第1号竪穴建物出土遺物観察表	8
第3表	第5号竪穴建物出土遺物観察表	13
第4表	第4号竪穴建物出土遺物観察表	14
第5表	第2号竪穴建物出土遺物観察表	16
第6表	第3号竪穴建物出土遺物観察表	21
第7表	第9号竪穴建物出土遺物観察表	22
第8表	第6号竪穴建物出土遺物観察表	23
第9表	第10号竪穴建物出土遺物観察表	24
第10表	遺構外出土遺物観察表	24

写真図版目次

PL.1	調査区全景 第1・5・7号竪穴建物完掘状況 第1・5号竪穴建物遺物出土状況	
PL.2	第1号竪穴建物カマド完掘状況 第1号 竪穴建物遺物出土状況（1）（2）	
PL.3	第1号竪穴建物貯蔵穴内遺物出土状況 第5号竪穴建物カマド完掘状況 第5号 竪穴建物貯蔵穴内遺物出土状況	
PL.4	第5号竪穴建物炭化材出土状況 第4号竪 穴建物完掘状況 第2号竪穴建物完掘状況	
PL.5	第8号竪穴建物・第1号土坑完掘状況 第2号竪穴建物遺物出土状況 第2号竪 穴建物カマド遺物出土状況	
PL.6	第2号竪穴建物遺物出土状況 第3・ 9・10号竪穴建物完掘状況 第6号竪穴 建物完掘状況	
PL.7	第3号竪穴建物カマド完掘状況 第10号 竪穴建物遺物出土状況 表土除去作業	
PL.8	第1号竪穴建物出土遺物（1）	
PL.9	第1号竪穴建物出土遺物（2）	
PL.10	第1号竪穴建物出土遺物（3）	
PL.11	第1・5・9号竪穴建物出土遺物	
PL.12	第2号竪穴建物出土遺物（1）	
PL.13	第2号竪穴建物出土遺物（2）	
PL.14	第2号竪穴建物出土遺物（3）	
PL.15	第2号竪穴建物出土遺物（4）	
PL.16	第3・4・6・10号竪穴建物、遺構外出 土遺物	

第1章 調査経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

今回の調査は、事業者小島高氏が大東建託株式会社つくば支店に委託施工する集合住宅新築工事に伴う記録保存を目的とした発掘調査である。

当初この事業は、平成22（2010）年に計画された。埋蔵文化財有無の照会・回答を経て、6月15・22日に試掘確認調査を実施し、古墳時代の堅穴建物2棟を発見した。発見した埋蔵文化財の保存について盛土保存の方向で事業者と協議を行った。しかし事業進行の過程で、敷地内に公園上存在するが実際は使われていない道の存在等が明らかになり、計画変更の必要が生じた。この結果、面積・建物棟数等を変え、工法も切土せざるを得ない事情が生じたため、発掘調査による記録保存を行う方針に変更された。事業者は、市教委と遺跡調査に関する協議を平成26年末から27年2月にかけて行った。

その結果、市教委は主任調査員等を提供して発掘調査を直営で実施し、事業者側は発掘調査作業員賃金等の負担を負う方向で合意を得た。事業者は有限会社日考研茨城に発掘調査支援委託として平成27年4月15日に契約を行い、市教委の直営調査の中で労務管理や支出行為等は有限会社日考研茨城が行う等の役割分担を行った。上記に関しては平成27年4月20日三者間で協定書を締結し、書面で今回の埋蔵文化財保存についての取扱を明確化した。以下、行政上の手続等を記す。

- 平成27年6月25日 土教委発第674号にて埋蔵文化財発掘の通知を茨城県教育委員会（以下県教委と略）文化課に進達する。
- 平成27年7月8日 文第951号にて県教委教育長から事業者あてに周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について発掘調査を行うよう通知があり、試掘で発見した遺構に発掘調査が必要である旨等を指示する。
- 平成27年7月14日 市教委、土教委発第704号にて県教委に埋蔵文化財発掘調査報告を提出する。
- 平成27年7月28日 発掘調査が終了する。
- 平成27年7月29日 市教委が土教委発第782号にて発掘調査終了確認を県教委に依頼する。同日、市教委、土教委発第783号にて、遺跡調査終了に伴う埋蔵物発見届を土浦警察署に提出する。
- 平成27年8月4日 県教委、文第1198号にて発掘調査終了を確認する。以後、平成28年3月まで整理作業を行う。

第2節 調査経過

- 7月11日 発掘調査を開始し、重機による表土除去作業を行う。
- 7月14日 発掘調査作業員を投入し、ジョレンによる遺構確認作業を開始する。試掘により想定した堅穴建物軒数よりも多いことが判明する。
- 7月18日 遺構調査を開始し、堅穴建物の掘り下げ、遺物や遺構の測量と写真撮影による記録を行う。
- 7月28日 発掘調査を終了する。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

土浦市は、茨城県南部に位置し、北部に筑波山塊から南東に伸びる新治台地、中央部に桜川低地、東部に霞ヶ浦、南部に筑波稲敷台地が広がっている。

糧買場遺跡は、土浦市市街地北東部、本田余東台二丁目地内に所在する。小谷によって本田余東台と本田余西台に分けられる。本遺跡は、桜川左岸、霞ヶ浦北岸の標高約25~27mの新治台地上に位置し、目前にはハス田の広がる桜川低地および桜川河口、そして霞ヶ浦を望むことができる。現況は宅地および畠地である。

糧買場遺跡の位置する本田余台は遺跡の分布が濃密な地域であり、古くは耕作に伴って箱式石棺などが発見された。1987~1991年には本田余土地区画整理事業に伴って大規模な発掘調査が行われ、その成果がまとめられている。この事業によって調査された糧買場遺跡(1)、御吳遺跡(2)、東台遺跡(3)、東台古墳群(4)、宝積遺跡(5)、一丁田台遺跡(6)、一丁田台東遺跡(7)、宮崎遺跡(8)、宮脇遺跡(9)の9遺跡を総称して本田余台遺跡群と呼んでいる。糧買場遺跡は、遺跡群の西側に位置し、東側で御吳遺跡と接する。本田余土地区画整理事業による発掘調査が本田余台遺跡群の一次調査にあたり、本調査は、本田余台遺跡群に含まれる糧買場遺跡の集合住宅建築に伴う二次調査である。調査区は糧買場遺跡の範囲の南端部に位置する。

また周辺地域では、開発行為に伴う浅間塚西遺跡(33)や八幡下遺跡(43)の調査、真鍋小学校改築に伴う大宮前遺跡(35)の調査などがなされている。

第2節 歴史的環境

本田余台遺跡群の一次調査によって、住居跡589軒、土坑855基、古墳18基と多数のピット状遺構、溝が検出され、旧石器時代から中世までの複合遺跡であることが明らかとなった。特に、糧買場遺跡と御吳遺跡では遺構が複雑に重複する状況が認められ、他の遺跡では重複関係があまり見られないことから、上記の2遺跡が本田余台遺跡群の中心と考えられている。糧買場遺跡の一次調査では、第1~25区までの調査区が設定され、古墳~奈良・平安時代の住居跡302軒、縄文~古墳時代までの土坑235基、16条の溝、多数のピット群が検出された。

本田余台遺跡群を中心とする地域の歴史的環境を時代順にみていくと、旧石器時代には、糧買場遺跡・御吳遺跡・東台遺跡・宝積遺跡・大宮前遺跡において旧石器が確認されている。糧買場遺跡では縄文時代の草創期の石器も見つかっている。

縄文時代の集落は、糧買場遺跡・御吳遺跡・東台遺跡で少数の住居跡が見つかっているものの、多くは土坑である。土坑群は糧買場遺跡と御吳遺跡で多数見つかっており、特に縄文時代中・後期が主体である。また縄文時代の遺跡としては、本田余東台と北側の谷部を挟んで位置する台地上に、坪内貝塚(14)をはじめとして、縄文時代早期から後期までの遺跡がまとまっている。

弥生時代では、宝積遺跡や東台遺跡で住居跡が見つかっており、宝積遺跡では大型の住居跡も見つかっている。また境川東側の手野の台地上にも立遺跡(21)や姫塚遺跡(25)などが見られ、弥生時代の遺跡は境川周辺にまとまるようである。

古墳時代になると、桜川左岸の台地には坂田から常名、殿里、真鍋、本田余台そして手野台にかけて、古墳や集落が連続と認められる。本田余台遺跡群では全域に集落が営まれ、古墳も築造される。古墳時代前期・中期の住居跡は台地東側の東台遺跡・宝積遺跡に多く、後期は西側の糧買場遺跡・御吳遺跡で多く見られる。

さらに本田余西台に立地する浅間塚西遺跡、真鍋台に立地する東真鍋八坂前遺跡（34）や大宮前遺跡、殿里台に立地する八幡下遺跡でも集落が見つかっている。また、大宮前遺跡と浅間塚西遺跡において古墳時代前期の玉作関連資料が出土している。特に浅間塚西遺跡では工房跡が認められ、滑石製管玉の製作工程のわかる重要な資料群が出土している。

古墳としては、殿里古墳（41）や殿里台古墳（40）、真鍋愛宕神社古墳（37）、浅間塚古墳（32）、東台古墳群、そして市指定史跡である王塚古墳（27）、后塚古墳（26）などが挙げられる。東台古墳群は、その多くが墳丘の確認できないものであったが、調査の結果、前方後円墳12基、円墳4基、方墳2基、不明1基の計19基の古墳が確認された。多くの古墳の主体部には箱式石棺が認められ、出土遺物としては直刀や鐵劍、耳環などがある。築造時期は古墳後期および終末期と考えられる。また東台古墳群と境川を隔てた手野台には前期古墳として有名な王塚古墳・后塚古墳が存在する。王塚古墳は全長84mの前方後円墳で、市内最大規模である。

奈良・平安時代の集落は、穀買場遺跡や宝積遺跡、八幡下遺跡などで見つかっている。中世には、手野台に手野城址（20）、南側の低地に本田余城址（30）が立地する。大宮前遺跡からは平安時代末から鎌倉時代の掘立柱建物跡や方形堅穴遺構が確認されている。

このように、本田余台および周辺地域では、旧石器時代から中世に至るまで、継続して人々の生活が営まれたと言える。特に古墳時代は前期から終末期まで古墳が点在し、霞ヶ浦を望む重要な地であったと想定される。古墳の立地と集落の変遷については、今後議論されるべき点であろう。

参考文献

- 土浦市教育委員会（1973）『本田余台の石棺（埋蔵文化財調査報告）』
土浦市教育委員会（1974）『殿里台及び常名台遺跡調査報告書』
土浦市教育委員会（1984）『土浦の遺跡』
土浦市教育委員会（1989）『本田余台—茨城県土浦市本田余土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報一』
土浦市教育委員会（1991）『本田余台I—茨城県土浦市本田余土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』
土浦市教育委員会（1991）『八幡下遺跡発掘調査報告書』
土浦市教育委員会（2002）『本田余台II—茨城県土浦市本田余土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』
土浦市教育委員会（2004）『大宮前遺跡—真鍋小学校校舎改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』
土浦市教育委員会（2011）『浅間塚西遺跡・房谷遺跡・内出後遺跡（第1次調査）』



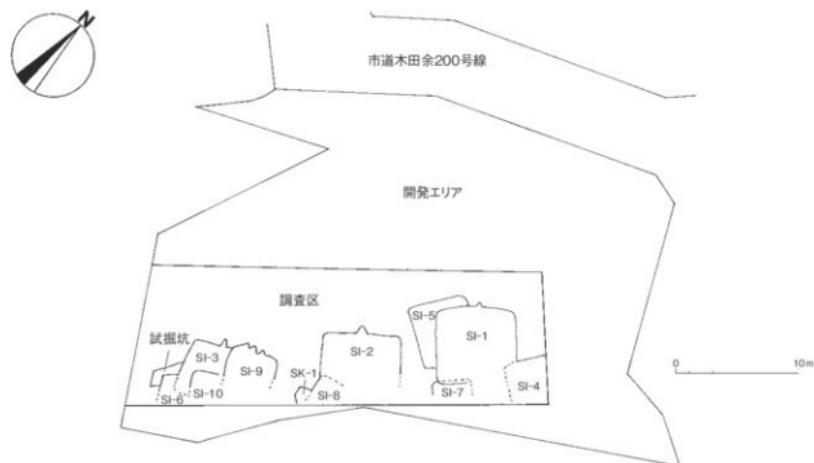
第1図 稲買場遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院25,000分の1「常陸藤沢」に加筆）

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺 跡 名	時代					No.	遺 跡 名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良 平安			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世
1	稲買場遺跡	○	○		○	○	23	羽田亦遺跡		○	○				
2	御吳遺跡	○	○			○	24	手野宮脇遺跡			○	○			
3	東台遺跡	○	○	○	○	○	25	姫塚遺跡		○	○				
4	東台古墳群				○		26	后塚古墳〔市指定史跡〕			○				
5	宝積遺跡	○	○	○	○	○	27	王塚古墳〔市指定史跡〕			○				
6	一丁田台遺跡				○		28	手野ドンドン塚古墳			○				
7	一丁田台東遺跡	○			○		29	上天津西小学校前遺跡			○	○			
8	宮崎遺跡				○		30	木田余城址〔市指定史跡〕				○			
9	宮臨遺跡				○		31	八坂前遺跡		○	○				
10	前神田遺跡				○		32	浅間塚古墳			○				
11	中道遺跡	○			○	○	33	浅間塚西遺跡			○				
12	蟹久保遺跡	○					34	東真鍋八坂前遺跡			○				
13	花輪遺跡	○					35	大宮前遺跡	○		○	○	○	○	
14	坪内貝塚	○					36	どんどん塚					○		
15	坪内遺跡	○					37	真鍋愛宕神社古墳					○		
16	松山遺跡	○		○	○	○	38	西真鍋遺跡	○		○				
17	神立八幡遺跡	○			○		39	殿里遺跡	○		○	○	○		
18	青木遺跡	○			○		40	殿里台古墳			○				
19	天神平遺跡	○		○	○		41	殿里古墳			○				
20	手野城址					○	42	八幡台遺跡			○	○	○		
21	立遺跡	○	○	○	○	○	43	八幡下遺跡			○	○			
22	五斗落遺跡	○	○	○	○	○									



第2図 調査区位置図（土浦市土地計画図5000分の1に加筆）



第3図 遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査の結果、古墳時代の竪穴建物8軒、奈良時代の竪穴建物1軒、平安時代の竪穴建物1軒、古墳時代以前の土坑1基を発見した。遺構は調査区の南側に集中する。第1・4・5・7号竪穴建物、第2・8号竪穴建物・第1号土坑、第3・6・9・10号竪穴建物がそれぞれ重複しており、上記の重複関係にある遺構群ごとに記載する。

第2節 遺構と遺物

1 竪穴建物

第1号竪穴建物 (SI-1)

位置 調査区の東側に位置する。第4号・第5号・第7号竪穴建物と重複しており、本遺構が最も新しい。

規模 長軸6.6m、短軸6.3mのやや縦長の長方形を呈している。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁溝を伴い、垂直に立ち上がる。南東側は削平されている。

床 おおむね平坦。壁からP1、P4、およびP1と2の間に間仕切が見られる。硬化面が認められた。

貯蔵穴 北東端で1ヶ所確認された。東西約82cm、南北約60cmの隅丸方形を呈し、深さは約54cmを測る。

覆土は2層確認され、1層暗赤褐色土は焼土粒を多量に含み、2層暗赤褐色土はローム粒を多量に含む。底面および壁面からは、坏が2~3枚重なって出土した(1・3・5・8・10~12)。

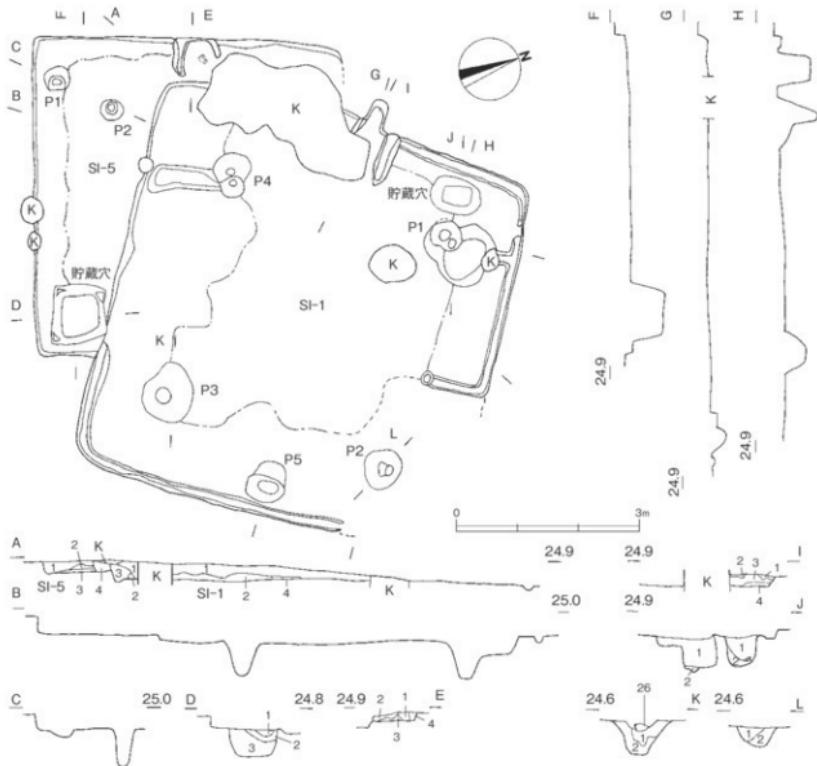
ピット 全部で5ヶ所確認された。配置と規模からP1~4は主柱穴に相当すると考えられる。円形・楕円形を呈し、径38~100cm、深さ32~56cmを測る。4ヶ所とも硬化面が認められた。P1には不明瞭な落ち込みが伴う。P4は硬化面が2ヶ所認められ、柱替えが行われたと考えられる。P5は入り口施設に相当し、楕円形で長径70cm、深さ23cmを測る。P3上面からは土師器壺(26)が完形に近い形で見つかった。

カマド 北壁中央に構築され、主軸は概ね一致する。壁下場から約50cm壁外に伸びて煙道部が構築される。左袖および焚口は擾乱を受け残存状態が悪い。右袖は約90cmを測る。奥壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層確認され、3層以下は焼土ブロックや炭化物が多量に検出された。

覆土 4層確認された。おそらく自然堆積と思われる。

出土遺物 遺構南側ほど覆土が薄いこともあり、出土遺物は北半部に集中している。出土した遺物には土師器、須恵器、土製品(土玉・丸玉)、石製品、鍛冶関連遺物がある。土師器坏が17点(1~17)、壺が5点(21~25)、小型壺が1点(20)、瓶が1点(26)出土した。その他、須恵器壺が2点(18~19)、土玉が5点(27~31)、丸玉が2点(32~33)、石製品(鏡模造品)が1点(35)出土した。鍛冶関連遺物としては、輪の羽口が1点(34)と、遺構西部で微細な鉄滓および鉄製品破片が出土した。

所見 本遺構の時期は、土師器坏類や瓶の形態などから、古墳時代後期、およそ6世紀末から7世紀初頭と考えられる。鍛冶関連遺物が出土しているが、関連施設は認められていない。遺構の形態および出土遺物のセットから、市内に所在する石橋南遺跡の第8・10号住居跡や入ノ上遺跡の第26・31号住居跡などとも同様の特徴が見られ、当該時期であると考えられる。



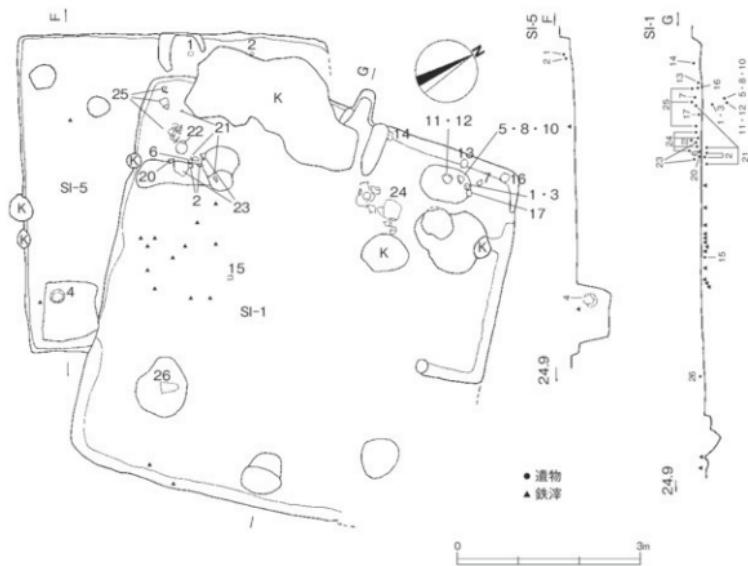
SI-1

- 1 黒闇色土 地上粒多量、炭化物粒中量、ローム粒多量
- 2 黄褐色土 地上ブロック多量、ロームブロック多量
- 3 暗褐色土 地上ブロック多量、炭化物粒多量
- 4 暗褐色土 地上ブロック多量、ローム粒多量、粘土粒多量
- SI-5
- 1 暗褐色土 地上粒中量、炭化物粒中量、ローム粒多量
- 2 黑闇色土 地上粒多量、炭化物粒中量、ローム粒多量
- 3 黄褐色土 ロームブロック多量
- 4 黄褐色土 粘土ブロック多量
- SI-5 貯藏穴
- 1 暗褐色土 地上粒多量
- 2 黄褐色土 ローム粒多量
- 3 黄褐色土 地上粒中量、ローム粒多量
- SI-5 カマド
- 1 暗褐色土 地上粒多量
- 2 黄褐色土 地上粒多量、粘土粒多量
- 3 黄褐色土 地上粒多量、ローム粒多量、粘土粒多量
- 4 黄褐色土 地上粒多量、粘土粒多量

SI-1 カマド

- 1 暗赤褐色土 地上粒少量、炭化物粒少量、ローム粒中量
- 2 黄褐色土 炭化物粒少量、ローム粒少量
- 3 暗赤褐色土 地上ブロック多量、炭化物粒中量
- 4 黑褐色土 地上粒多量、炭化物粒多量
- SI-1 貯藏穴
- 1 暗赤褐色土 地上粒多量、炭化物粒中量、ローム粒中量
- 2 暗赤褐色土 炭化物粒中量、ローム粒多量
- SI-1 P1
- 1 暗褐色土 ローム粒多量
- 2 黄褐色土 炭化物粒中量、ロームブロック多量
- SI-1 P2
- 1 黑褐色土 ローム粒中量
- 2 黄褐色土 ローム粒多量

第4図 第1・5号堅穴建物実測図

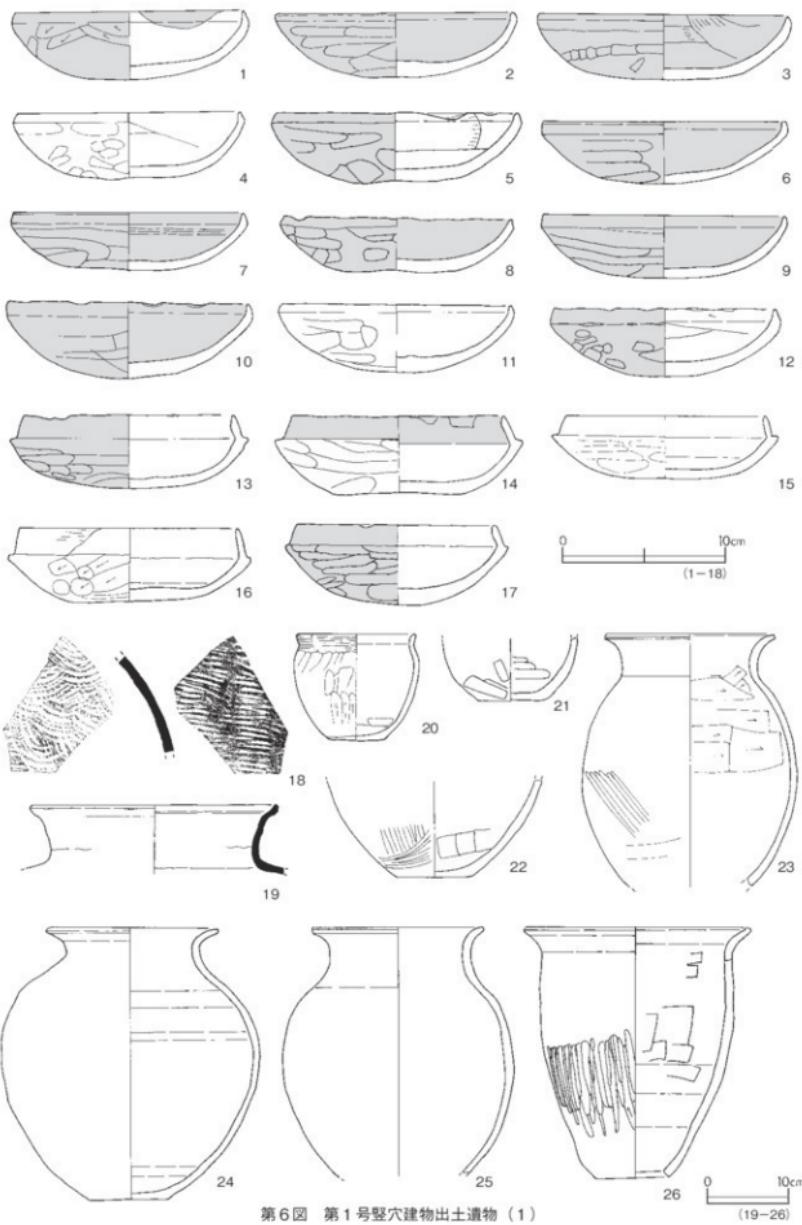


第5図 第1・5号竪穴建物遺物出土状況

第2表 第1号竪穴建物出土遺物観察表

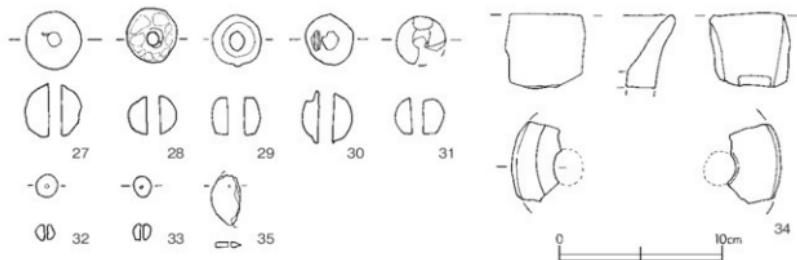
No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土器 环	A:138 C:42	貯藏穴壁面上位 二枚重ねの上 完形	雲母・長石・ 赤色粒	良好	内面：にぶい 黄褐色 外面：黒色	完形。底部は丸底で体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、口縁部は断面三角形で内傾する。底部はヘラナデ、体部外側は多方向からのヘラ削りおよびヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外面および内面 の一部に黒色処理
2	土器 环	A:142 B:40 C:39	床面直上 95%	雲母・長石	良好	黒色	ほぼ完形。口縁部一部欠けあり。底部はわずかに平坦面を持ち、体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、わずかに内傾する。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外外面黒色処理
3	土器 环	A:152 C:40	貯藏穴壁面上位 二枚重ねの下 95%	雲母・長石	普通	内面：にぶい 褐色・黒色 外面：にぶい 褐色・黒色	ほぼ完形。口縁部に一部欠けあり。底部は丸底で体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラ削り後ヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外外面黒色処理
4	土器 环	A:134 B:50 C:40	覆土上位 95%	雲母・長石・ 赤色粒・砂粒	普通	内面：にぶい 黄褐色 外面：にぶい 赤褐色	ほぼ完形。口縁部一部欠けあり。底部はわずかに平坦面を持ち、体部は丸底を持って開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外一部黒色処理
5	土器 环	A:146 C:42	貯藏穴壁面中位 三枚重ねの上 完形	雲母・長石・ 赤色粒・黒色 粒	普通	内面：にぶい 褐色 外面：黒色	完形。底部は平坦気味の丸底で、体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、断面三角形で矧く内傾する。底部はヘラ削り後ヘラナデ、体部外側は多方向からのヘラ削り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外黑色処理 内面に長さ約2 cmの纖維状の 痕跡が2ヶ所認 められる。

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
6	土師器 环	A : (14.8) C : 38	床面直上 60%	雲母・長石	良好	黒褐色	底部から口縁部片。底部は丸底で体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部は一方凹のヘラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、「口縁部および内面は横ナデを施す。」	内外面黒色処理
7	土師器 环	A : 14.0 C : 35	覆土上位 完形	雲母・長石	良好	にせい赤褐色	完形。底部は平坦気味の丸底で、体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。口縁部は断面三角形を呈する。底部は二方向からのヘラ削り後へラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後へラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
8	土師器 环	A : 14.2 B : 5.0 C : 32	貯藏穴裏面中位 三枚重ねの中 完形	雲母・長石	普通	黒色	完形。底部は小さな平面を持ち、浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。口縁部は断面三角形で窪く直立する。底部はヘラ削り後へラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
9	土師器 环	A : (14.8) C : 38	覆土中 60%	雲母・石英・ 長石	良好	にせい褐色	底部は丸底で体部は大きく開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラ削り後へラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
10	土師器 环	A : 14.8 C : 47	貯藏穴裏面中位 三枚重ねの下 96%	雲母・長石・ 赤色粒	普通	内面：黒色 外面：黒褐色	ほぼ完形。口縁部に一部欠けと体部にヒビあり。底部は丸底で、体部は丸みを持って立ち上がる。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラ削りおよびヘラナデを施し、軽いヘラ削りの痕跡がよく残る。体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
11	土師器 环	A : 14.0 C : 41	貯藏穴底面直上 二枚重ねの下 完形	雲母・長石・ 赤色粒	普通	明赤褐色～黒 色	完形。底部は丸底で、やや浅めに立ち上がる。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面一部黒色 処理
12	土師器 环	A : 13.8 C : 42	貯藏穴底面直上 二枚重ねの上 完形	雲母・長石・ 赤色粒	普通	内面：赤褐色 外面：黒色～ にせい赤褐色	完形。底部は丸底でやや浅めに立ち上がる。体部と口縁部の境に棱を持ち、内傾する。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後へラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外面黒色処理
13	土師器 环	A : 12.8 C : 45	覆土下位 完形	雲母・長石・ 赤色粒	良好	にせい黄褐色	完形。口縁部に一部欠けあり。底部は丸底で体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に段を持ち、口縁部は若干中彫れして直線的に立ち上がる。底部は多方角からの静止へラ削り、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外面黒色処理
14	土師器 环	A : (13.0) C : 47	カマド袖部 60%	雲母・石英・ 長石	良好	内面：橙色 外面：明赤褐色	底部から口縁部片。底部は平坦附近で、体部は丸みを持って立ち上がる。体部と口縁部の境に段を持ち、口縁部は内傾して直線的に立ち上がる。底部は多方角からのヘラ削り、体部外側は横位のヘラナデ、「口縁部および内面は横ナデを施す。」	口縁部内外面に 黒色処理
15	土師器 环	A : 12.0 C : 38	覆土下位 90%	雲母・長石・ 赤色粒	良好	にせい橙色	ほぼ完形。底部はやや平坦な丸底で、体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に段を持ち、口縁部は内傾して大きいくち立ち上がる。底部は多方角からのヘラ削り、体部外側は横位のヘラナデ、「口縁部および内面は横ナデを施す。」	外周一部に黒色 処理
16	土師器 环	A : 13.5 C : 45	床面直上 完形	雲母・長石・ 赤色粒	良好	にせい黄褐色	完形。口縁部に多少欠けあり。底部は丸底で、体部と口縁部の境に段がつぐ。「口縁部は若干中彫れして直線的に立ち上がる。底部は多方角からのヘラ削りおよびヘラナデ、体部外側は多方角からのヘラ削りおよび細かなヘラナデ、「口縁部および内面は横ナデを施す。」	
17	土師器 环	A : 12.2 C : 49	貯藏穴裏面直上 完形	雲母・長石・ 黑色粒	良好	内面：にせい 橙色 外面：黒褐色	完形。口縁部に多少欠けあり。底部は丸底で、体部と口縁部の境に段がつぐ。「口縁部は若干中彫れして直線的に立ち上がる。底部は多方角からのヘラ削りおよびヘラナデ、体部外側は多方角からのヘラ削りおよび細かなヘラナデ、「口縁部および内面は横ナデを施す。」	外面黒色処理
18	須恵器 甕	C : (6.4)	覆土中 10%	長石	良好	灰色	体部破片。体部外側に柔線の叩き目、横位のヘラナデを施す。内面は同心円文のあて具痕を施す。	



第6図 第1号竪穴建物出土遺物(1)

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
19	埴輪器 甕	A : (29.2) C : (8.3)	覆土中 15%	長石	良好	灰色	口縁部破片。肩の張りが強く、口縁部は外反し、直線的に立ち上がる。口唇部に棱を持つ。内外面とも回転ナデを施す。口唇部にへタ割りの痕跡が残る。肩の上位に胎土のめくれがみられる。	
20	土師器 小型甕	A : 14.2 C : 12.5	床面直上 96%	雲母・石英・ 長石	良好	内面：褐灰色 外面：にぶい 赤褐色～黒褐色	底部は丸底だが、体部との境には段がつづけられる。底部は球形を呈し、口縁部と体部の境に若干段がつく。口縁部はゆるやかな「丁」字状に外反する。底部は多方向からのへタ割り後ヘラナデ、体部外面は横位の粗いへタ割り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	外面部黑色処理。器厚は薄く整彫されている。
21	土師器 甕	B : 8.0 C : (7.4)	床面直上 20%	雲母・石英・ 長石・赤色 粒・砂粒	普通	黒褐色	底部片。底部は平底で、体部は丸みを持って強く立ち上がる。底部は多方向からのへタミガキおよびヘラナデ。体部外面は多方向からのヘラナデ、体部内面は横位のヘタナデ。底部内面は底面と粘土縫との接着部にヘラナデを施す。	外面部被熱あり。
22	土師器 甕	B : 9.0 C : (11.5)	覆土中 20%	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	内面：にぶい 黄褐色 外面：にぶい 赤褐色	底部片。底部は平底で、体部は丸みを持って大きく聞く。底部は多方向からのへタミガキおよびヘラナデ。体部外面下位に多方向からのヘタミガキ。内面に横位のヘラナデを施す。	
23	土師器 甕	A : (20.4) C : (30.2)	覆土中 25%	雲母・長石・ 砂粒	普通	内面：にぶい 黄褐色 外面：橙色	体部下位～口縁部片。最大径は体部中位にあり、肩から口縁にかけて緩やかな「く」字を描く。口縁部は外反し大きく聞く。体部内面に横位のヘタミガキ。口縁部および内面に横位のヘラナデを施す。	
24	土師器 甕	A : 21.0 B : 9.7 C : 32.7	カマド右袖付近 80%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	にぶい赤褐色	底部は平底で、体部は大きく膨らみ、最大径は体部中位にある。頭部はよく縮まる。口縁部は「く」字に大きく外反する。口縁部外間に横位のヘラナデ。底部直上に二段のへタ割りを施す。	被熱を受けもろい。
25	土師器 甕	A : 20.7 C : (29.5)	床面直上 90%	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	底部欠損。最大径は体部中位にあり、肩の張りは弱い。口縁部は「S」字に外反する。口縁部内面は横ナデを施す。	被熱を受けもろい。
26	土師器 甕	A : 27.0 B : (8.6) C : 30.3	P3上面 90%	雲母・長石・ 石英・赤色 粒・砂粒	良好	にぶい褐色	単孔式の瓶。体部はやや丸みを持って強く立ち上がる。口縁部は「ハ」字に聞く。体部外面上位以下に縱位の細かなヘタミガキ。口縁部および内面は横ナデを施す。	
27	土製品 土玉	長 : 3.5 幅 : 3.3 厚さ : 3.5	覆土中 完形	雲母・長石	普通	にぶい黄褐色	不整球形を呈する完形の土鍤。ヘラナデを施す。	重量 : 31g
28	土製品 土玉	長 : 2.3 幅 : 2.9 厚さ : 3.3	覆土中 完形	雲母・長石・ 砂粒	普通	にぶい黄褐色 ～黒褐色	ほぼ球形を呈する完形の土鍤。細かなヘラナデを施す。	重量 : 22g
29	土製品 土玉	長 : 2.3 幅 : 3.0 厚さ : 3.1	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	明赤褐色	ほぼ球形を呈する完形の土鍤。上下面を平らに整形。側面にヘラナデを施す。	重量 : 22g
30	土製品 土玉	長 : 3.1 幅 : 3.0 厚さ : 3.1	覆土中 完形	雲母・長石	普通	にぶい褐色	不整球形を呈する完形の土鍤。ヘラナデを施す。側面に指痕圧痕あり。	重量 : 24g
31	土製品 土玉	長 : 2.2 幅 : 3.0 厚さ : 3.0	覆土中 60%	長石・石英・ 赤色粒	普通	褐色	球形を呈する土鍤。上下面をわずかに平らに整形。側面にヘラナデを施す。	重量 : 14g
32	土製品 丸玉	長 : 0.9 幅 : 1.2 厚さ : 1.3	覆土中 完形	雲母	良好	黒色	球形を呈する丸玉。側面にヘラナデを施す。	外面部黑色処理 重量 : 2g
33	土製品 丸玉	長 : 1.0 幅 : 1.1 厚さ : 1.2	覆土中 完形	雲母・長石	良好	黒色	球形を呈する丸玉。側面にヘラナデを施す。	外面部黑色処理 重量 : 2g
34	土製品 羽口	長 : (4.5) 幅 : (4.4)	覆土中 10%	雲母・長石・ 赤色粒	普通	橙色	羽口下部の破片。側面にナデを施す。	
35	石製品 鏡模造品	長 : (3.0) 幅 : (1.7) 孔径 : 0.2	覆土中 50%	—	—	黒色	滑石製。1／2程度欠損。上半部に片側から穿孔。各面に研磨痕あり。	



第7図 第1号竪穴建物出土遺物（2）

第5号竪穴建物（SI-5）

位置 調査区の東側に位置する。東側で第1号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が古い。

規模 長軸5.24m、短軸5.06mのほぼ正方形を呈している。

主軸方向 N-60°-W

壁 垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床 ほぼ平坦。硬化面が認められた。

貯蔵穴 南端で1ヶ所確認された。長軸96cm、短軸70cmの長方形を呈し、深さは約44cmを測る。3ヶ所で中間場が認められた。覆土は3層確認され、1・2層はローム粒を多量に含み、3層は焼土粒を中量含む。3層からは大型の土師器壺の口縁部片（4）が1点出土している。

ピット 全部で2ヶ所確認された。配置と規模からP2は主柱穴に相当すると考えられる。円形を呈し、径40cm、深さ60cmを測る。P1は円形を呈し、径40cm、深さ12cmを測る。深さが浅く、性格は不明である。

カマド 北壁中央に構築され、主軸は概ね一致する。煙道は認められなかった。左袖の残存状態は良く、約64cmを測る。奥壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層確認され、多量の焼土粒が検出された。2層は粘土・砂を多く含み、カマド天井部が崩落したものと考えられる。土師器壺（1）が1点出土している。

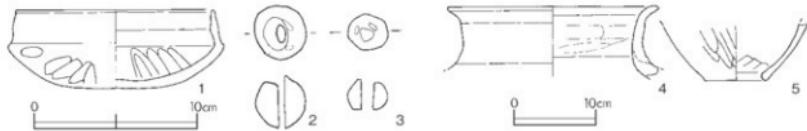
覆土 4層確認された。4層は粘土を多量に含み、カマド構築材の一部と考えられる。1～3層は焼土粒およびローム粒を多量に含む。遺構北西部においては床面付近から炭化材および焼土が散在的ではあるが、多量に認められた。

出土遺物 第1号竪穴建物と重複しており、出土遺物は少ない。土師器壺1点（1）、土玉2点（2・3）、土師器壺1点（4）、土師器壺1点（5）、支脚1点（カマド内）、鉄滓2点が出土している。

所見 本遺構の時期は、第1号竪穴建物よりも古く、土師器壺と大型の土師器壺の形態などから、古墳時代後期、およそ6世紀前葉と考えられる。床面付近からは多量の炭化材や炭化物が認められたことから、本遺構は焼失家屋の可能性が考えられる。

第3表 第5号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	粘土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 环	A : (12.0) C : 4.8	カマド覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	内面：赤褐色 ～にぶい褐色 外側：にぶい 褐色	底部は丸底やや浅めに開く。体部と口縁部の 境に段を持ち、口縁部は若干中膨れで内傾する。 底部外側はヘラ削りおよびヘラナデ。体部外側 は多方向からのへつ削り後ヘラナデ、口縁部内 外面は横ナデ。体部内面は放射状にヘラミガキ を施す。	
2	土製品 土玉	長：32 幅：32 厚さ：33	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	ほぼ球形を呈する完形の土錐。下面を平らに整 形。側面にナデを施す。	重量：31g
3	土製品 土玉	長：19 幅：25 厚さ：22	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	やや扁平な球形を呈する土錐。側面にナデを施す。	重量：8g
4	土師器 壺	A : (12.4) C : (8.4)	P1覆土中 10%	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	にぶい赤褐色	体部を欠損する大型の壺。頭部はほぼ垂直に立 ち上がり、口縁部はゆるやかに外反する。内外 面とも横ナデを施す。	
5	土師器 瓶	B : (7.4) C : (6.6)	覆土中 5%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	内面：黒褐色 外側：にぶい 赤褐色	単孔式の瓶体部下位片。体部は斜め上方にやや 強く立ち上がる。体部外側下位に縱位のヘラミ ガキ、体部内面下位は多方向のナデを施す。	



第8図 第5号竪穴建物出土遺物

第4号竪穴建物 (SI-4)

位置 調査区の東側に位置する。西側で第1号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が古い。

主軸方向 N - 57° - W

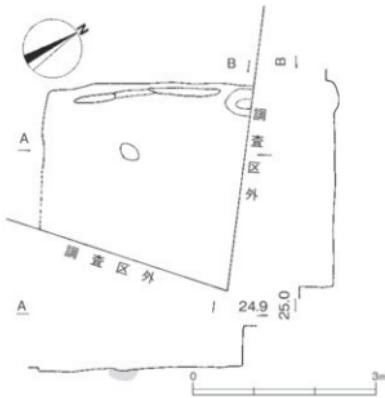
壁 垂直に立ち上がる。北側に一部壁溝が認められた。

床 ほぼ平坦。中央部に焼土が認められ、長径34cm、短径23cm、深さ4cmの楕円形を呈している。焼土は大変薄く、炉跡の可能性は低い。

ピット 北壁において1ヶ所確認された。楕円形で径46cm、深さ10cmを測る。性格は不明である。

出土遺物 土師器環が1点出土している。

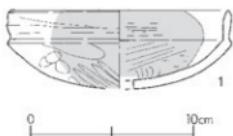
所見 本遺構の時期は、土師器環の形態から、第1号竪穴建物よりも古く、古墳時代後期、6世紀後半と考えられる。



第9図 第4号竪穴建物実測図

第4表 第4号竪穴建物出土遺物觀察表

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 环	A : (13.4) C : (4.8)	覆土中 40%	雲母・長石・ 石英	普通	内面：褐色 外面：にぶい 褐色	底部は丸底で浅めに開く。体部と口縁部の境に 持ち上がりがある。底部はヘラナデ、体部外側は 多方向からのヘラナデ、口縁部および内面は横 位のヘラナデおよびヘラミガキを施す。	内外面黒色処理



第10図 第4号竪穴建物出土遺物

第7号竪穴建物 (SI-7)

位置 調査区の東側に位置する。北側で第1号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が古い。

規模 長軸3.36m、短軸は計測不能。

主軸方向 N-48°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床 ほぼ平坦。

貯蔵穴 西端で1ヶ所確認された。全体的にロームを多く含み、焼土や炭化物を多く含む。

ピット・カマド なし (未確認) 出土遺物 なし

所見 出土遺物がないが、本遺構の時期は、第1号竪穴建物よりも古く、古墳時代後期中葉以前の可能性が考えられる。

第2号竪穴建物 (SI-2)

位置 調査区中央に位置する。第8号竪穴建物、第1号土坑と重複しており、本遺構が最も新しい。

規模 残存している側壁から推定すると、一辺6.36mの方形を呈している。

主軸方向 N-40°-W 壁 壁溝を伴い、ほぼ垂直に立ち上がる。

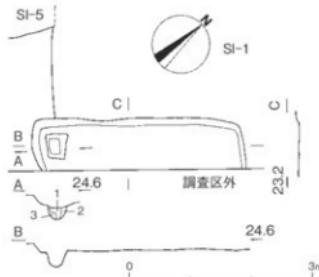
床 おおむね平坦。貯蔵穴 なし (未確認)

ピット 全部で6ヶ所確認された。配置と規模からP1~4は主柱穴に相当すると考えられる。円形を呈し、径26~40cm、深さ26~104cmを測る。P5・6は径34~53cm、深さ28~38cmを測り、柱穴の可能性も考えられる。

カマド 北壁中央に構築され、主軸は概ね一致する。壁下場から約60cm壁外に伸びて煙道部が構築される。左袖は残存状態が悪く、右袖は約38cmを測る。奥壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土最下層は黒色の炭層であり、その上位にはカマド構築材と考えられる灰色粘土層が認められた。上位ほど焼土層が多く認められ、中には植物遺体が焼土と共に固結したものも見つかった。カマド周辺には土師器窓の破片や手握土器(18)が出土した。

覆土 5層確認された。

出土遺物 遺構南側ほど覆土が薄いこともあり、出土遺物は北半部に集中している。土師器窓8点(1~8)、



第11図 第7号竪穴建物実測図

SI-7 貯蔵穴

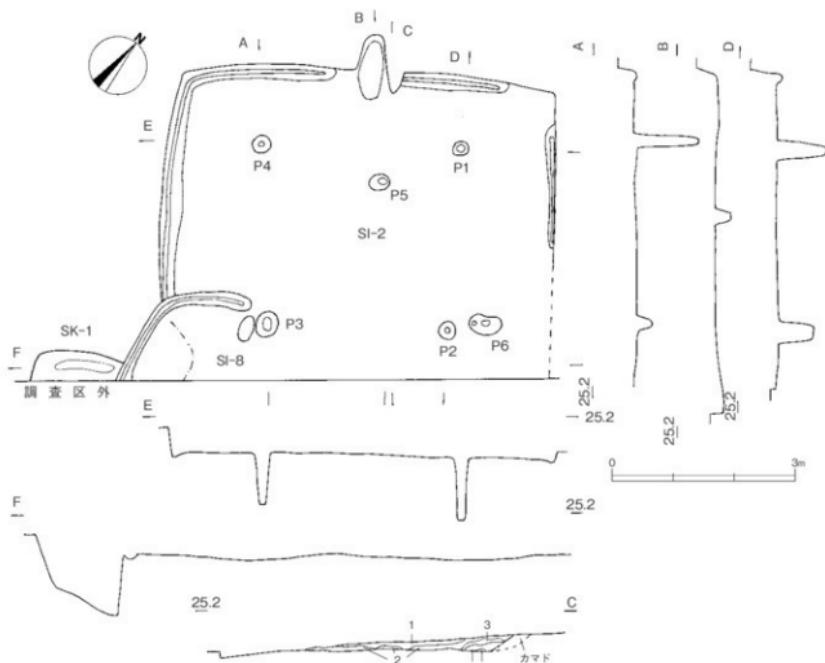
1 明ホモ色土 焼土粒多量、炭化物多量、ローム粒多量

2 にふいホモ色土 焼土粒多量、炭化物粒多量、ローム粒多量

3 明ホモ色土 焼土粒少量、炭化物粒少量、ローム粒多量

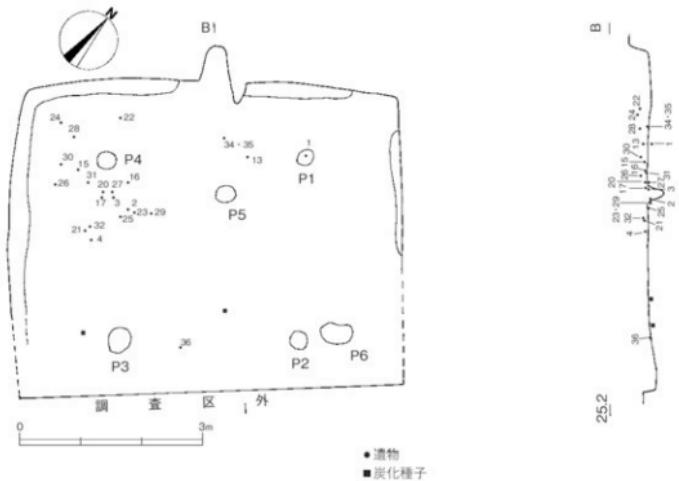
鉢1点(9)、高坏1点(10)、壺3点(12~14)が出土した。その他、須恵器壺1点(11)、手捏土器18点(15~32)、土製品2点(33・34)、丸玉1点(35)、土玉2点(36・37)、石製紡錘車1点(38)、支脚1点、鉄製品破片1点、炭化種子(モモ核)5個体以上が出土した。手捏土器がまとまって出土しており、全面的に指頭による成形を施し非常に粗い作りのものと(15~19、27~32)、体部が粘土紐によって成形され口縁部が薄く立ち上がるもの(20~26)の大きく2種類に分けられる。土製品は粘土紐を粗く円形に成形したようなもので、孔が穿たれる。

所見 手捏土器が床面直上から覆土にかけてまとまって出土しており、さらに手捏ねの土製品や炭化モモ核も出土していることから住居廃絶後に祭祀的行為があったものと考えられる。手捏土器がまとまって出土した事例としては山川古墳群11号墳(報告書では3号墳)の周構内埋葬施設から出土した20点の小型鉢がある。これらは埋葬施設である棺上に置かれていたものと想定され、祭祀行為が執り行われたと考えられるものである。対して堅穴建物からまとめて出土した事例はほとんどなく、櫻賀場遺跡一次調査では、第46号・157号堅穴建物からそれぞれ1点の手捏土器が出土している。本遺構の時期は、土師器壺や高坏の形態などから、古墳時代後期、7世紀前半と考えられる。



- 1 黒色土 地上粒多量、炭化物中量、ローム粒多量
- 2 矢張褐色土 地上粒多量、炭化物中量、ローム粒中量
- 3 褐色土 地上粒多量、炭化物少量、ロームブロック多量
- 4 暗褐色土 地上粒多量、炭化物中量、ローム粒多量
- 5 黒色土 炭化物多量

第12図 第2・8号堅穴建物、第1号土坑実測図



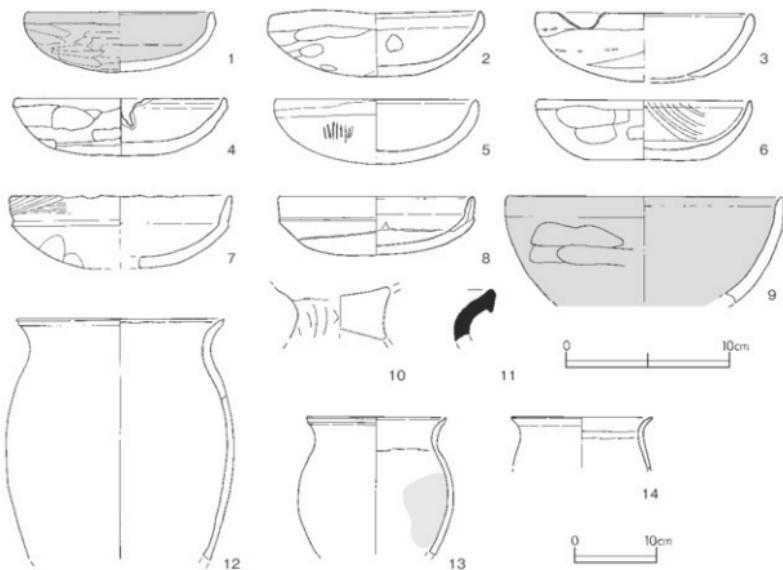
第13図 第2号竪穴建物遺物出土状況

第5表 第2号竪穴建物出土遺物観察表

No.	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 环	A:11.5 C:3.6	P1上面 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい赤褐色 ～黒色	底部は丸底でやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、口縁部は断面三角形で垂直に立ち上がる。底部は一方のヘラ削り後、ヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後ヘラナデ、口縁部は横ナデ、内面はヘラ削り後ヘラナデを施す。	内外面一部黒色 処理
2	土師器 环	A:12.8 C:3.8	床面直上 完形	雲母・長石・ 赤色粒・砂粒	良好	褐色	底部は丸底でやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち、口縁部は断面三角形で垂直に立ち上がる。底部は多方向のヘラ削り後ヘラナデ、体部外側は多方向のヘラ削り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	
3	土師器 环	A:13.3 C:4.2	床面直上 95%	雲母・長石・ 石英	普通	内面：赤褐色 外面：灰青褐色 ～黒色	底部は径約4cmほどの不整円形の孔が入る傾向にあらわれている。底部は丸底でやや浅めに開く。体部と口縁部の境に僅かに棱を持つ。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削り後ヘラナデを施す。口縁部および内面は横ナデを施す。	
4	土師器 环	A:12.9 C:3.5	床面直上 95%	雲母・長石	普通	内面：明赤褐色 ～黒褐色 外面：にぶい 褐色	口縁部に一部欠損があるのがほぼ完形。底部は不整な丸底で、浅めに開く。体部と口縁部の境は体部の削りにより明瞭な棱を持ち、垂直に立ち上がる。底部は多方向のヘラ削りおよびヘラナデを施す。また指頭圧痕および長径5mm程度の指円形の圧痕が数ヶ所見られる。体部外側は横位の細いヘラ削りおよびヘラナデを施し、指頭圧痕も数ヶ所見られる。口縁部および内面は横ナデを施す。	
5	土師器 环	A:12.4 C:3.9	覆土中 80%	雲母・長石・ 石英	普通	灰黄色	底部は丸底でやや浅めに開く。体部と口縁部の境に棱を持ち立ち上がる。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラ削りおよびヘラナデ、数ヶ所に横位の櫛歯状の工具痕が見られる。口縁部および内面は横ナデを施す。	

No	器種 形態	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
6	土師器 环	A : [12.7] B : [6.4] C : 3.6	覆土中 60%	雲母・長石・ 石英	普通	内面：にぶい 黄褐色 外面：灰黃褐色	底部は平坦に近く、体部は丸みを持って強く立ち上がる。体部と口縁部の境に棱を持ち、口縁部は断面三角形を呈する。底部は一方から後のハラ割り、体部外側は横位のハラ割り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	
7	土師器 环	A : [13.6] C : [4.4]	覆土中 50%	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	底部は丸底で浅めに開く。体部と口縁部の境に段を持つ、わずかに外反しながら立ち上がる。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	
8	土師器 环	A : [12.0] C : 3.6	覆土中 95%	雲母・長石・ 石英	普通	灰黄褐色	器壁が薄くはがれた部分があるが、ほぼ完形。底部は丸底で浅めに開く。体部と口縁部の境に段を持つ、底部は立ち上がる。底部はヘラナデ、体部外側は横位のヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	破面は粘土接合 痕を示す。
9	土師器 鉢	A : [17.0] C : (6.5)	覆土中 20%	雲母・長石	普通	黒褐色	口縁部片。体部は丸みを帯びて立ち上がる。体部と口縁部の境に棱を持つ。体部外側は多方向のヘラ割り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
10	土師器 高环	C : (3.6)	覆土中 20%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	にぶい橙色	高环脚部の輪に当たる部分で、中央である。わざくにくびれる。外側は横位のヘラナデ、環部内面は横位のヘラミガキを施す。	内外面黒色処理
11	須恵器 甕	C : (3.1)	覆土中 5%	雲母・長石	普通	灰色	口縁部小片。口縁部外反し、口唇部は面取られる。口縁部外側に回転ナデを施す。	新治窯跡群産
12	土師器 甕	A : [24.8] C : [28.8]	覆土中 20%	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	にぶい褐色	体部～口縁部片。体部は僅かな丸みを帯びてゆるやかに立ち上がる。最大径は体部中央位にあり、頭部の縮まりは弱い。口縁部は「く」字にゆるやかに外反し、口唇部は段を持って覗見し直立する。体部外側は縱位の繊かなヘラミガキ、口縁部外側に横ナデを施す。体部内面は横位のヘラナデを施す。	
13	土師器 甕	A : [16.6] C : (16.5)	覆土中 30%	雲母・長石・ 石英	普通	内面：灰黄褐色 外面：にぶい 赤褐色	体部～口縁部片。最大径は体部中央位にある。口縁部は「く」字にゆるやかに外反する。口唇部は段を持って覗く直し、S字状を呈する。口縁部内面に横ナデを施す。	体部内面にスヌ 付着あり。
14	土師器 甕	A : [17.0] C : (6.1)	覆土中 10%	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	内面：にぶい 橙色 外面：にぶい 赤褐色	口縁部片。口縁部は「く」字にゆるやかに外反する。口縁部および内面に横ナデを施す。	
15	手捏土器	A : 9.0 C : 3.5	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英	普通	黑色	手捏ねで成形され、底部は不整圓形形を呈する丸底で、体部は丸く短く立ち上がる。粘土接合部内面に横ナデを施す。	内外面黒色処理
16	手捏土器	A : 5.5 B : 8.0 C : 4.3	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色 ～黒褐色	手捏ねで成形され、底部はやや平底で不整圓形形を呈する。体部は丸く短く立ち上がる。粘土接合部内面に横ナデを施す。全面的に指頭による成形を施し、非常に粗い。器壁は厚く、重い。	底部～体部一部 黒色処理。
17	手捏土器	A : 5.9 B : 5.5 C : 3.8	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	手捏ねで成形され、底部は平坦気味の不整圓形形を呈した丸底で、体部は丸く短く立ち上がる。底部は多方向の棒状の压痕が見られる。全面的に指頭による成形を施し、非常に粗い。	
18	手捏土器	A : (4.3) B : (3.7) C : (3.5)	カマド覆土中 60%	雲母・長石・ 石英	普通	明赤褐色～橙 色	手捏ねで欠損する手捏土器。体部は直線的に強く立ち上がる。全面的に指頭による成形を施す。他に比べて器壁が薄い。	底部～体部一部 黒色処理。
19	手捏土器	A : (6.0) B : 2.0 C : (2.4)	覆土中 50%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	不良	にぶい黄褐色	手捏ねで成形され、体部は丸く短く立ち上がる。底部は一方からのハラ割り後、棒状の压痕がつけられる。全面的に指頭による成形を施す。非常に粗い。	
20	手捏土器	A : (7.0) B : 6.0 C : (2.2)	床面直上 90%	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい黄褐色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は円形形を呈する平底で、体部は直線的に立ち上がり、浅い小皿状を呈する。体部は粘土接合部によって成形し、底部と体部との接着は粗く、体部外側には粘土接合部内面に横ナデを施す。内面は多方向のヘラナデにより粘土を引き上げて成形される。	
21	手捏土器	A : 12.1 B : 7.6 C : 5.9	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい橙色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は不整圓形形を呈する平底で、体部は直線的に斜め上方に立ち上がる。粘土接合部によって成形し、底部と体部との接着は粗く、体部外側には粘土接合部内面に横ナデを施す。内面は横位のヘラナデを施す。体部と底部との接着は粗く、空洞が見られる。	底本要板あり。 体部外側に一 部スヌが付着 する。

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
22	手捏土器	A : 12.3 B : 7.8 C : 5.2	覆土中 90%	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	にいし橙色	口縁部一部欠損あり。ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は不整円形を呈する平底で、体部は直線的に斜め上方に立ち上がる。体部は粘土繩によって成形し、側面のハラケを施すが、粘土接合部が残る。内面は横位のヘラナダを施し、体部と底部との接着は粗く、一部空洞が見られる。	底部木葉模あり。
23	手捏土器	A : (11.8) B : 8.8 C : (4.7)	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英・砂粒	普通	にいし黃褐色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は円形を呈する平底で、体部は直線的に斜め上方に立ち上がる。底部外側はヘラナダを施し、体部は粘土繩によって成形する。底部と体部との接着は粗く、体部外側には横位のヘラ削りを施すが、一部粘土繩が残る。内面は横位のヘラナダを施す。	底部庄痕あり。
24	手捏土器	A : (10.0) B : 8.8 C : (3.4)	覆土中 90%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	灰黃褐色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は円形を呈する平底で、体部は直線的に斜め上方に立ち上がり、浅い皿状を呈する。粘土繩一段を積み上げ、底部内側の土を指頭により上方に引き上げて成形される。体部外側はナデ、内面は繩を施す。	底部木葉模あり。
25	手捏土器	A : (9.3) B : 6.6 C : (3.7)	床面直上 90%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	にいし橙色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は円形を呈する平底で体部は直線的に斜め上方に立ち上がり、浅い皿状を呈する。底部内側は丸みを帯びる。体部は粘土繩によって成形し、横ナダを施す。内面は横位のヘラナダを施す。	底部木葉模あり。
26	手捏土器	A : (8.3) B : 7.0 C : 3.4	覆土中 95%	雲母・長石・ 石英・砂粒・ 赤色粒	普通	にいし黃褐色	ほぼ手捏ねで成形され、器形全体にゆがみがある。底部は円形を呈する平底で、体部は直線的に斜め上方に立ち上がる。粘土繩によって成形し、底部と体部との接着は粗い。体部外側は指ナダを施すが、粘土接合部が残る。体部内側は横位のヘラ削りを施し、体部と底部との接着は粗く、空洞が見られる。底部内側は多方向の指ナダを施す。	底部木葉模あり。
27	手捏土器	A : 7.0 B : 5.0 C : 2.6	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英	普通	内面：黒色 外側：にいし 黃褐色	手捏ねで成形され、底部は一部平坦面を持つひびき丸底で、体部はよく粗く立ち上がる。底部は多方向の横状の庄痕が見られる。全面的に指頭による成形を施し、非常に粗い。	底部庄痕あり。 内面黒色処理。
28	手捏土器	A : 8.6 B : 4.7 C : 3.4	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	棕色～黑色	手捏ねで成形され、底部は平底気味の丸底で、体部は多く粗く立ち上がる。底部は多方向に横状の横断片の跡跡が見られる。全面的に指頭による成形を施し、非常に粗い。	底部庄痕あり。 底部黑色処理。
29	手捏土器	A : 7.4 B : 6.7 C : 3.8	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	にいし黃褐色 ～黒色	手捏ねで成形され、底部は不整円形を呈し、体部は多く粗く立ち上がる。底部は一方方向のラブ削りを施し、体部は粘土繩および指頭による成形を施す。非常に粗い。	底部一部黒色処理、底部庄痕あり。
30	手捏土器	A : 6.0 B : 5.2 C : 4.7	覆土中 完形	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	にいし褐色	手捏ねで成形され、底部は平底に近く、体部は丸くやや厚く内傾する。粘土繩および指頭による成形を施し、非常に粗い。	底部～体部に一部黒色処理。底部庄痕あり。
31	手捏土器	A : 6.4 B : 5.8 C : 4.4	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	内面：黒色 外側：にいし 黃褐色	手捏ねで成形され、底部は平底気味の不整円形を呈した丸底で、体部は丸く厚く立ち上がる。底部は多方向に横状の跡跡が見られる。粘土繩および指頭による成形を施し、非常に粗い。	底部。内面庄痕あり。 内面黑色処理。
32	手捏土器	A : 6.3 B : 6.0 C : 4.1	覆土中 完形	雲母・長石	普通	にいし橙色	手捏ねで成形され、底部は不整円形を呈した手捏ねによる土製品。横約1mmの孔が斜めに穿たれる。粘土繩を円形に巻いて押しつぶしたように見られる。	底部庄痕あり。
33	土製品	長:27 幅:25 厚:0.8	床面直上 完形	雲母・長石・ 赤色粒	普通	灰黃褐色	扁平な不整円形を呈した手捏ねによる土製品。横約1mmの孔が斜めに穿たれる。粘土繩を円形に巻いて押しつぶしたように見られる。	重量: 6g
34	土製品	幅:(3.0) 厚:0.8	床面直上 60%	雲母・長石・ 赤色粒	普通	にいし黃褐色	手捏ねによる土製品。不整円形を呈し、中央付近に孔が穿たれると思われる。	重量: (4g)
35	土製品 丸玉	長:1.2 幅:1.2 厚:5.10	床面直上 完形	雲母・長石	普通	にいし褐色	やや扁平な球形を呈する丸玉。側面にナダを施す。	重量: 0.5g
36	土製品 土玉	長:1.8 幅:2.0 厚:5.21	覆土中 完形	雲母・長石	普通	明赤褐色	ほぼ球形を呈する完形の土鍤。上下面を平らに整形。側面にヘラナダを施す。	重量: 7g
37	土製品 土玉	長:1.9 幅:2.4 厚:5.25	覆土中 完形	雲母・長石	普通	にいし褐色	不整球形を呈する完形の土鍤。上下面を平らに整形。側面にヘラナダを施す。	重量: 9g
38	石製紡錘車	長:4.0 幅:3.9 厚:5.11	床面直上 完形	—	—	灰オリーブ色	円形で下面に整形痕あり。ゆがみもあり粗い作り。孔の径は1.1cm。	重量: 24g



第14図 第2号竪穴建物出土遺物（1）

第8号竪穴建物（SI-8）

位置 調査区中央に位置する。第2号竪穴建物、第1号土坑と重複しており、第2号竪穴建物より古い。

規模 カマド左袖の位置から、一辺約3.6mと推定される。

主軸方向 N-20°-W

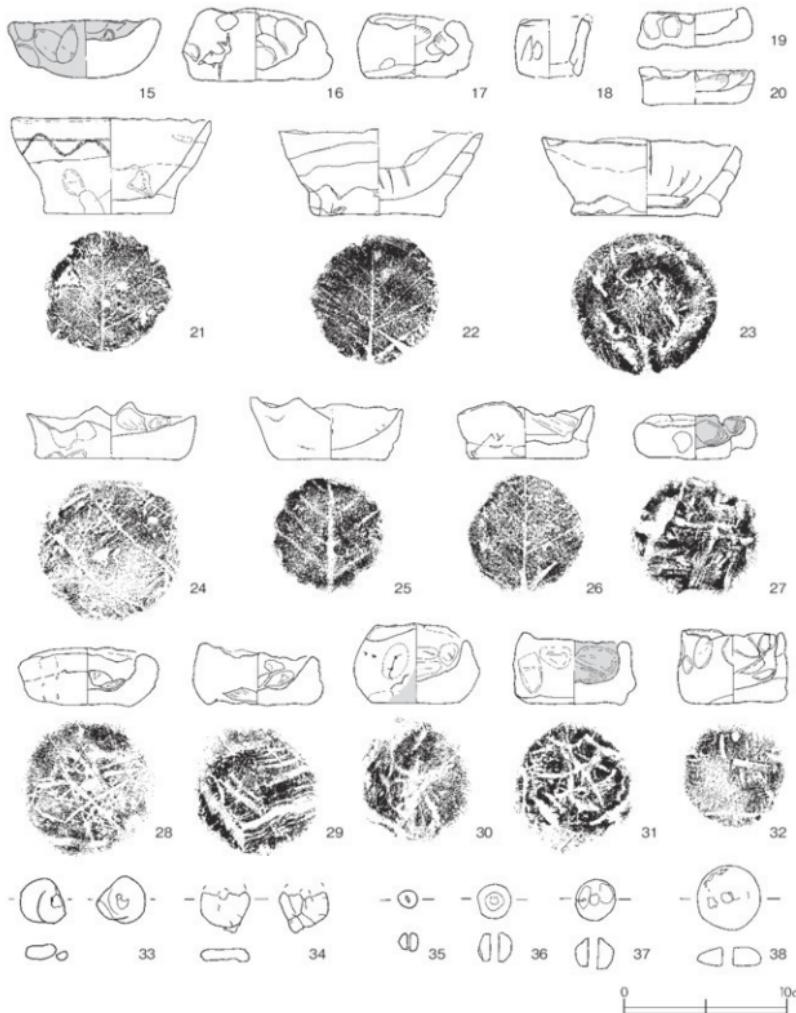
壁 壁溝を伴い、垂直に立ち上がる。

床 おおむね平坦。

貯蔵穴・ピット なし（未確認）

出土遺物 土師器片4点が出土している。

所見 目立った出土遺物がなく、遺物・遺構の帰属時期は不明であるが、第2号竪穴建物がおよそ古墳時代後期、7世紀前半と考えられることから、それ以前と考えられる。



第15図 第2号竪穴建物出土遺物（2）

第3号竪穴建物 (SI-3)

位置 調査区の西側に位置する。第6号・第9号・第10号竪穴建物と重複しており、本遺構が最も古い。

規模 カマドの位置から、一辺約5mと推定される。

主軸方向 N-23°-W 壁 壁溝を伴い、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 おおむね平坦。貯蔵穴 なし（未確認）

ピット 全部で3ヶ所確認された。配置と規模からP1～3は柱穴に相当すると考えられる。円形を呈し、径42～82cm、深さ22～42cmを測る。P1からは鉄製品破片が出土している。P3は第9号竪穴建物床面より検出された。

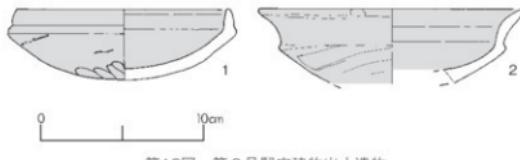
カマド 北壁に構築される。壁下場から約72cm壁外に伸びて煙道部が構築される。両袖の遺存状態はおおむね良好で、幅が細い。焚口幅は約64cmを測る。奥壁はなだらかに立ち上がっている。覆土には焼土ブロックが多量に含まれる。

出土遺物 出土遺物は少なく、土師器壺1点(1)、土師器高壺1点(2)が床面直上から出土した。また鉄製品の破片が2点出土している。

所見 本遺構の時期は、土師器壺の形態などから、古墳時代後期、6世紀後半と考えられる。

第6表 第3号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 壺	A:14.7 C:4.3	床面直上、壁面 完形	雲母・長石・ 石英	普通	黒褐色	完形。底部は丸底で体部はやや浅めに開く。体部と口縁部の境に段を持ち、口縁部は若干中割れで強い角度で上方に立ち上がる。底部外面は一方向のヘラ削り、体部外面は横位のヘラ削り後ヘラナデ、口縁部および内面は横ナデを施す。	内外面黒色処理
2	土師器 高壺	A:[16.4] C:4.5	床面直上 10%	長石・石英	良好	灰褐色 外面：ぶい 赤褐色	高壺の壺部片。体部と口縁部に段を持ち、口縁部はやや外反しながら「ハ」字に開く。口縁部に棱を持つ。体部外面は多方向からのヘラ削りおよびヘラナデ、口縁部は横ナデ、内面は横ナデおよびヘラミガキを施す。	内外面黒色処理



第16図 第3号竪穴建物出土遺物

第9号竪穴建物 (SI-9)

位置 調査区の西側に位置する。西側で第3号・第10号竪穴建物と重複しており、本遺構は第3号竪穴建物よりも新しく、第10号竪穴建物より古い。

規模 残存している側壁から、一辺3.5mと推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁溝を伴い、ほぼ垂直に立ち上がる。

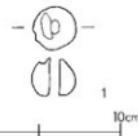
床 ほぼ平坦。

ピット 全部で2ヶ所確認された。配置と規模からP1・2は主柱穴に相当すると考えられる。円形・楕円形を呈し、径42～62cm、深さ26～28cmを測る。

カマド 北壁や西側に構築される。右袖は残存しておらず、左袖は約30cmのみ残存する。焚口幅は約58cmを測る。

出土遺物 土器器坏や壺の破片、須恵器破片が出土しているが、出土遺物は少ない。カマド近くからは土玉(1)が出土している。

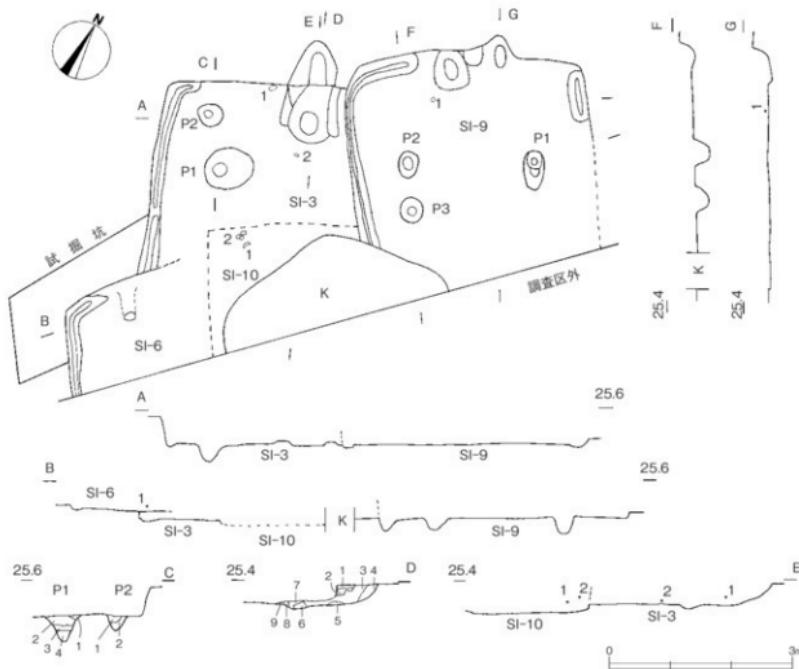
所見 目立った出土遺物がなく、遺物・遺構の帰属時期は不明であるが、カマドの存在などからおそらく古墳時代後期中葉であろう。



第17図 第9号竪穴建物出土遺物

第7表 第9号竪穴建物出土遺物観察表

No.	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土製品 土玉	長:23 幅:26 厚さ:26	床面直上 完形	雲母・長石・ 石英	普通	にぶい褐色	ほぼ球形を呈する定形の土錠。側面にナデを施す。	重量:14g



SI-3 カマド

- 1 硝赤褐色土 塗土ブロック多量、粘土ブロック多量
- 2 硝赤褐色土 塗土ブロック多量、粘土较少量
- 3 硝赤褐色土 塗土ブロック少量、ロームブロック中量
- 4 硝赤褐色土 塗土ブロック多量

5 黒褐色土 塗土ブロック多量

- 6 にぶい赤褐色土 塗土ブロック多量
- 7 硝赤褐色土 塗土ブロック多量
- 8 黄褐色土 ロームブロック
- 9 硝赤褐色土 塗土ブロック中量

SI-3 P1

- 1 植硝赤褐色土 塗土ブロック多量
- 2 植硝赤褐色土 塗土较少量、
ローム较少量
- 3 植硝赤褐色土 塗土ブロック多量
- 4 植硝赤褐色土 塗土较少量、
ローム较少量

SI-3 P2

- 1 植硝赤褐色土 塗土较少量、
ローム较少量
- 2 植硝赤褐色土 塗土较少量、
ローム较少量

第18図 第3・6・9・10号竪穴建物実測図

第6号堅穴建物 (SI-6)

位置 調査区の西側に位置する。第3号・第10号堅穴建物と重複しており、本遺構は第3号堅穴建物よりも新しく、第10号堅穴建物よりも古い。

主軸方向 N - 41° - W

壁 壁溝を伴い、ほぼ垂直に立ち上がる。

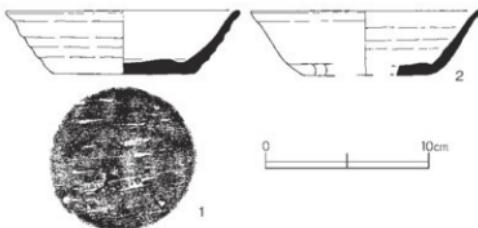
床 ほぼ平坦。

貯蔵穴・ピット なし (未確認)

カマド 左袖の一部が確認された。

出土遺物 遺物は少なく、須恵器坏が2点出土している。

所見 本遺構の時期は、出土した須恵器坏の底径がやや大きいことから、奈良時代8世紀中頃と考えられる。これらは胎土に雲母を含むことから新治窯跡群産であり、東城寺寄居前窯～東城寺窯の段階に相当すると考えられる。



第19図 第6号堅穴建物出土遺物

第8表 第6号堅穴建物出土遺物観察表

No.	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	須恵器 坏	A : [14.2] B : 85 C : 38	覆土 80%	雲母・長石・ 石英	普通	暗灰黄色	口縁部一部欠けあり、底部は侈の大きな平底で、 体部は直線的に立ち上がる。底部に静止ヘラ削り、 体部内外面に回転ナデを施す。	
2	須恵器 坏	A : [14.0] B : [9.0] C : 39	覆土 10%	雲母・長石・ 砂粒	普通	灰白色～灰黄 褐色	底部～口縁部片。底部は侈の大きな平底で、 体部は直線的に立ち上がる。底部は静止ヘラ削り、 体部下面下位は手持ちヘラ削り、体部内外面に 回転ナデを施す。	

第10号堅穴建物 (SI-10)

位置 調査区の西側に位置する。第3号・第6号・第9号堅穴建物と重複しており、本遺構が最も新しい。

規模 計測不可。遺構プランが不明瞭であった。

主軸方向 N - 26° - W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

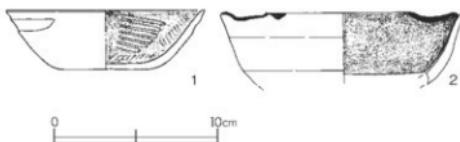
床 ほぼ平坦。

貯蔵穴・ピット なし (未確認)

カマド なし (未確認)

出土遺物 遺物は少なく、土師器内黒坏が2点出土している。ほかに土師器壺の破片が出土している。

所見 本遺構の時期は、土師器坏の形態などから、平安時代9世紀後葉と考えられる。



第20図 第10号堅穴建物出土遺物

第19表 第10号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種 器形	法量 (cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 内黒环	A : (12.2) B : (5.6) C : 3.6	覆土中 20%	雲母・長石・ 石英・赤色 粒・砂粒	普通	内面：黒色 外面：にふ い橙色	底部～口縁部片。底部は平底で、体部はやや丸 みを持って強い角度で立ち上がる。器厚は薄い。 底部は回転ヘラ削り。体部外面は横ナデ、体部 内部と底部内面はヘラミガキを施す。	内面黒色処理
2	土師器 内黒环	A : (14.8) C : (4.4)	覆土中 5%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	内面：黒色 外面：灰黄 褐色	口縁部片。体部は強い角度で斜め上方に立ち上 がる。体部外面は横ナデ、内面にはヘラミガキ を施す。口縁部に剥着灰化物あり。	内面黒色処理 灯明皿に使用か

2 土坑

第1号土坑（SK-1）

位置 調査区中央に位置する。第8号竪穴建物と重複しており、本遺構が最も古い。

平面形・規模 平面形不明。深さは最も深いところで、約134mを測る。

長軸方向 N-56°-E

壁面・底面 西側はゆるやかに立ち上がる。底面は起伏が見られるようである。

出土遺物 遺物は少なく、土師器破片が出土している。

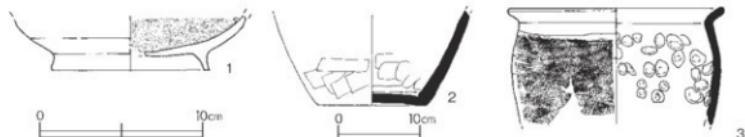
所見 目立った出土遺物がなく、遺物・遺構の帰属時期は不明であるが、遺構の重複状況から古墳時代以前と考えられる。

3 遺構外出土遺物

表土出土のほか、遺構内から出土したが明らかに当該遺構には伴わない異なる時代の遺物を含んでいる。いずれも平安時代のものと考えられる。記載はしていないが、古墳時代前期の遺物も若干であるが出土している。

第10表 遺構外出土遺物観察表

No	器種 器形	法量 (cm)	残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師器 内黒高台付环	高台径： 9.7 C : (3.3)	30%	雲母・長石・ 石英・赤色粒	普通	内面：黒色 外面：にふい 褐色	高台～体部片。高台は「ハ」字に開く。底部お よび体部外面下位に横ナデ、体部内面に一方向 の細かなヘラミガキを施す。	内面黒色処理
2	埴輪器 要	B : (13.0) C : (11.4)	10%	雲母・長石・ 黒色粒・砂粒	普通	暗灰黄色	底面を半分残した体部下位片。底部平底で体部 は直線的に外傾する。底面は若干内湾する。体 部外側下端に横位への削り、内面に横位のヘ ラナデ。底面にヘラ削りを施す。	表土出土 新治薬路群產
3	埴輪器 鉢	A : (25.7) C : (14.0)	25%	雲母・長石・ 石英	普通	内面：にふい 黄橙色～黒色 外面：黒褐色	体部～口縁部片。体部はやや丸みを持って開き、 口縁部は直角に外反する。体部外面に縱位の柔 軟の削り目。その後一部に横位のヘラ削り、口 縁部内面に回転ヘラナデ、体部内面に横位の削 り痕を残す。	新治薬路群產



第21図 遺構外出土遺物

第4章　まとめ

櫻買場遺跡第2次調査において、古墳時代の竪穴建物8軒、奈良時代の竪穴建物1軒、平安時代の竪穴建物1軒、古墳時代以前の土坑1基を発見した。古墳時代の遺構が多く見られたが、奈良・平安時代まで引き続き集落が営まれたことがわかった。ただ、奈良・平安時代の遺構は表土除去後の確認面からの掘り込みが浅く、搅乱後の影響もあり遺存状態は良好なかった。以下、各時代の調査成果について触れる。

①古墳時代

確認された竪穴建物8軒は古墳時代後期のものと考えられる。土坑1基は詳細な時期は不明であり、古墳時代以前と考えられる。出土遺物および遺構の重複関係から、後期前葉と考えられる遺構は、第5号竪穴建物、後期中葉の遺構は第1・3・4号竪穴建物、後期後葉の遺構は第2号竪穴建物が挙げられる。

特徴的な出土遺物として、第2号竪穴建物から出土した18点の手捏土器が挙げられる。床面から覆土中にかけて、投げ込まれたようにまとまって出土した。炭化したモモ核も出土しており、祭祀的行為があったものと考えられる。

また、第1・5号竪穴建物からは微細な鉄滓や鉄製品、縁の羽口といった鍛冶関連遺物が出土した。鍛冶に関連する施設は認められていないが、周辺で鉄器生産があった可能性がある。第1号竪穴建物において検出された貯蔵穴からは、土師器壺が2~3枚重なった状態で計7点出土した。

②奈良時代

奈良時代の遺構は第6号竪穴建物の1軒である。底径のやや大きな須恵器壺が出土しており、新治窯跡群産、特に東城寺寄居前窯～東城寺窯の段階に相当すると考えられる。奈良時代の遺構は、調査区の南西側、古墳時代の遺構よりも調査区際に位置する。

③平安時代

平安時代の遺構は第10号竪穴建物の1軒である。遺構外出土遺物にも平安時代と考えられる須恵器が出土している。奈良時代の遺構と同様に、調査区の南西側、調査区間に位置し、より南側に遺構が広がると考えられる。

参考文献

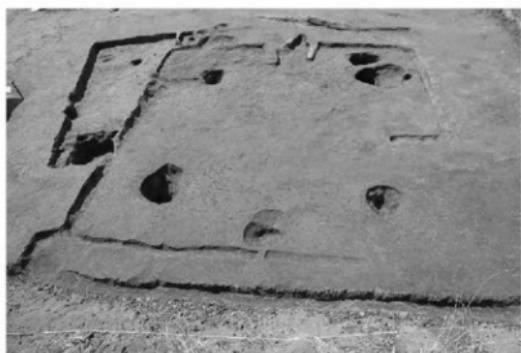
- 赤井博之（1997）「律令制変質期の須恵器の系譜—茨城県一」『古代生産史研究会'97シンポジウム 東国の須恵器』60-81頁
- 櫻村宣行（1992）「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団
- 黒澤春彦（2012）「資料紹介 新治窯跡群の新資料」『土浦市立博物館紀要』第22号 1-10頁
- 土浦市教育委員会（1997）『石橋南遺跡』
- 土浦市教育委員会（1997）『入ノ上遺跡』
- 土浦市教育委員会（2004）『山川古墳群（第2次調査）』

写真図版





調查区全景



第1·5·7号竖穴建物完掘状况



第1·5号竖穴建物遺物出土状况

PL. 2



第1号堅穴建物カマド完掘状況



第1号堅穴建物遺物出土状況（1）



第1号堅穴建物遺物出土状況（2）



第1号堅穴建物貯蔵穴内遺物出土状況



第5号堅穴建物カマド完掘状況



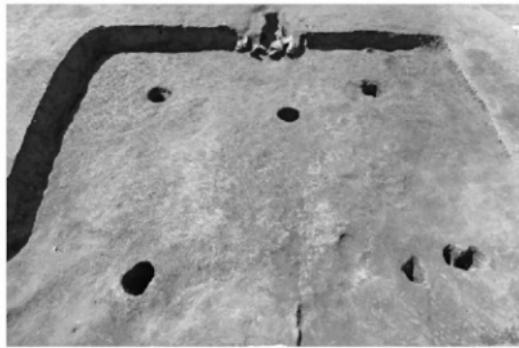
第5号堅穴建物貯蔵穴内遺物出土状況



第5号竖穴建物炭化材出土状況



第4号竖穴建物完掘状況



第2号竖穴建物完掘状況



第8号竖穴建物・第1号土坑完掘状况



第2号竖穴建物遺物出土状況



第2号竖穴建物カマド遺物出土状況



第2号竖穴建物遺物出土状況



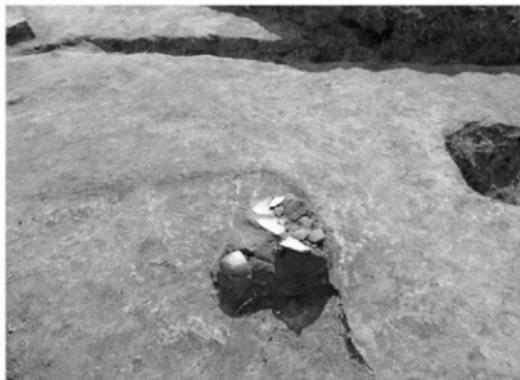
第3·9·10号竖穴建物完掘状況



第6号竖穴建物完掘状況



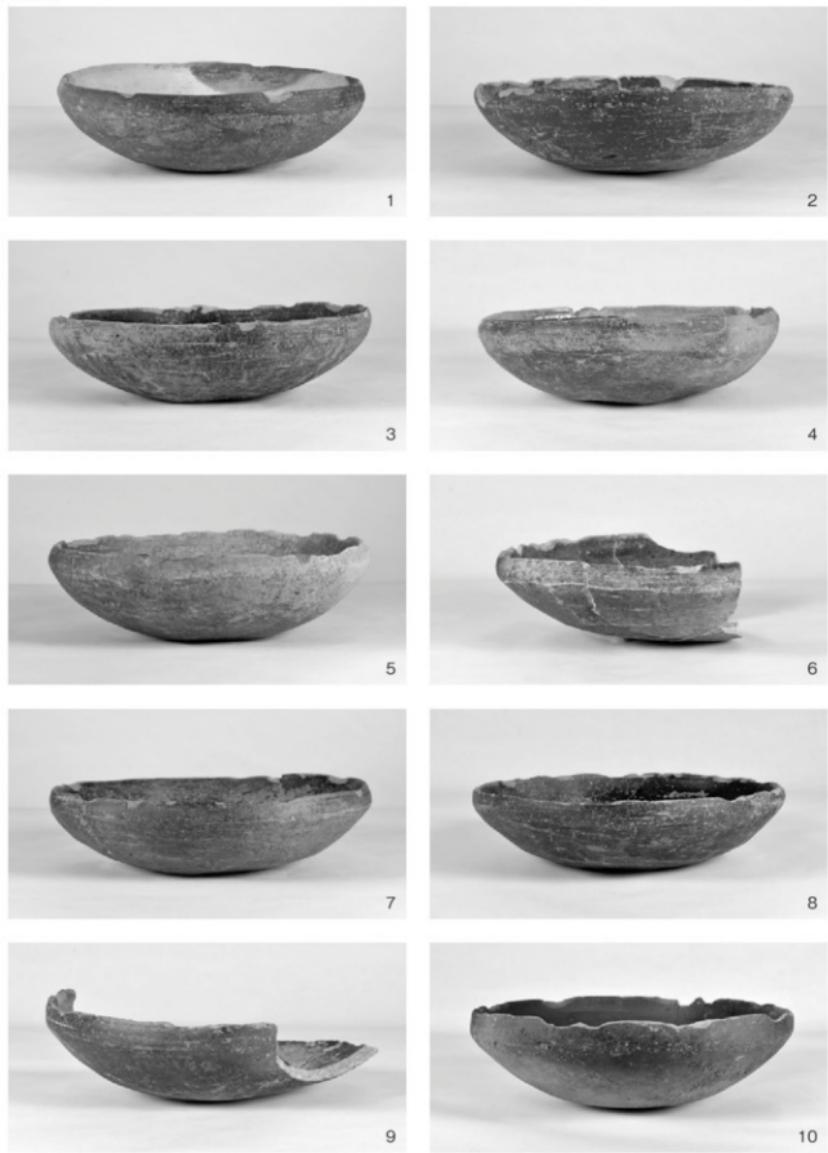
第3号堅穴建物カマド完掘状況



第10号堅穴建物遺物出土状況



表土除去作業



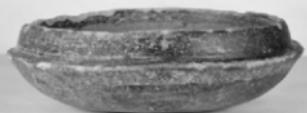
第1号竖穴建物出土遺物（1）



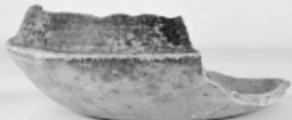
11



12



13



14



15



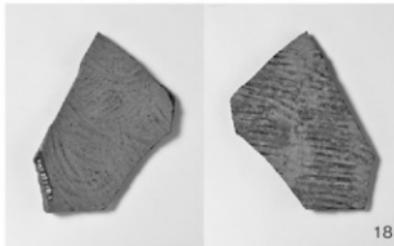
16



17



19



18

第1号竖穴建物出土遺物（2）



20



21



22



26



34



24



25

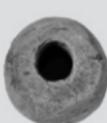
第1号竖穴建物出土遺物（3）



SI-1 27



28



29



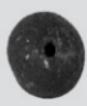
30



31



SI-1 32



33



SI-1 35



SI-1 鉄滓



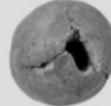
SI-5 1



SI-5 4



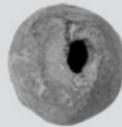
SI-5 5



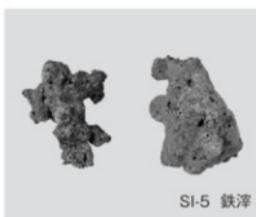
SI-5 2



3

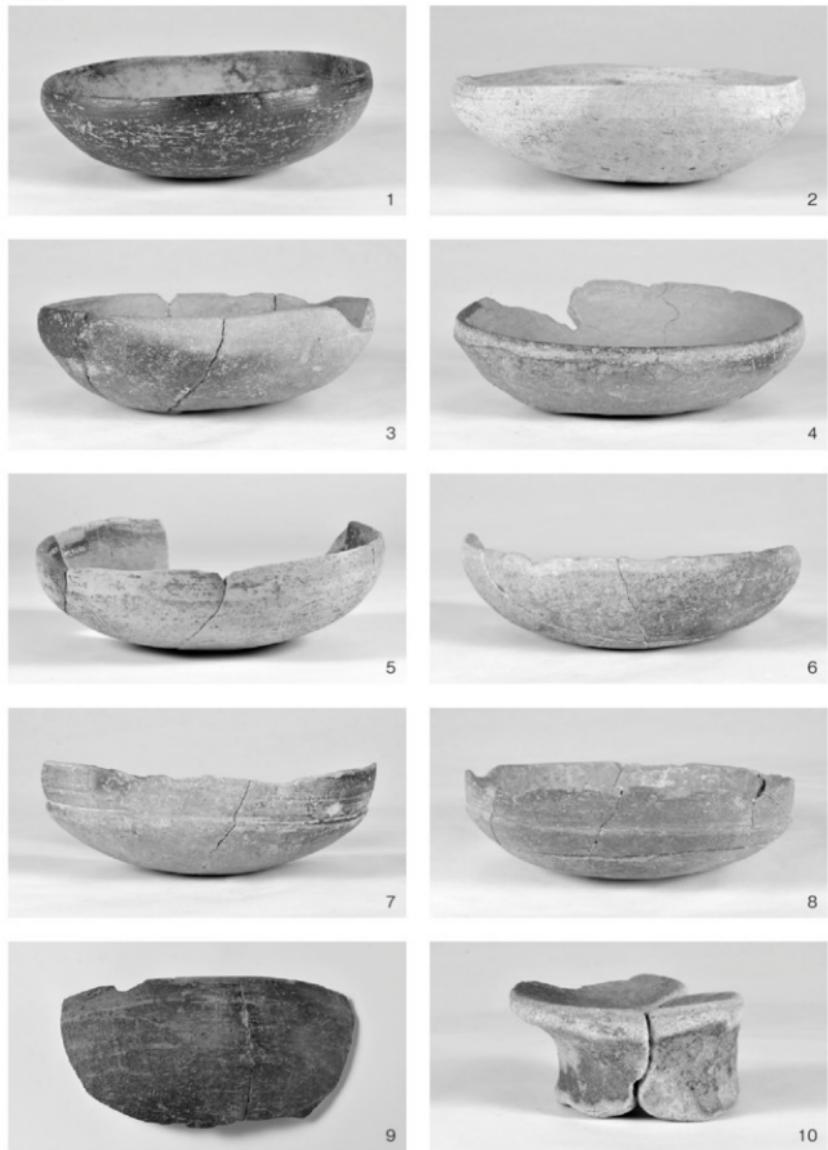


SI-9 1



SI-5 鉄滓

第1・5・9号竖穴建物出土遺物



第2号竖穴建物出土遗物（1）



第2号竖穴建物出土遺物（2）



19



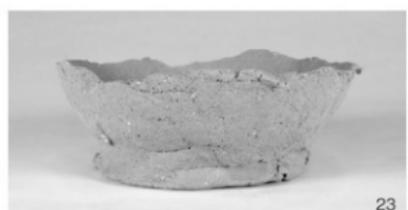
20



21



22



23



24



25



26

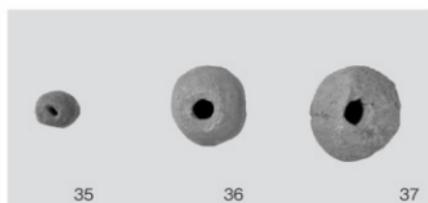
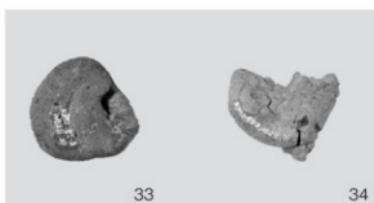


27



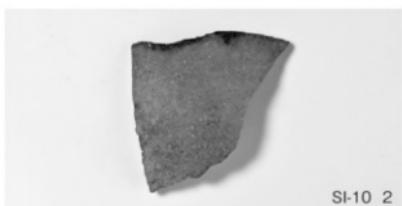
28

第2号竖穴建物出土遺物（3）



第2号竖穴建物出土遺物（4）

PL.16



第3・4・6・10号竪穴建物、遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	もみかいばいせき（だいにじちょうさ）
書名	精賀場遺跡（第2次調査）
副書名	集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編集者名	一木 紘理
著者名	一木 紘理・比毛 君男
編集機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843 TEL 029-826-7111
発行機関	土浦市教育委員会
所在地	〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号 TEL 029-826-1111（代表）
発行年月日	西暦2016年（平成28年）9月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度（新）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
もみかいばいせき 精賀場遺跡	つちうらし ときだまわりがい 土浦市木田余東台 二丁目3857番外	203	200	36° 5' 57.8"	140° 13' 4.8"	2015年 7月11日 ～ 7月28日	約 370m ²	集合住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
精賀場遺跡	集落跡	古墳		堅穴建物8軒 土坑1基		土師器（壺・甕・懶）、須恵器（壺）、手捏土器、土製品（土玉・丸玉）、石製紡錘車、鉄製品、炭化種子（モモ）	古墳時代の堅穴建物を発見した。第2号堅穴建物からは手捏土器がまとまって出土した。	
		奈良・平安		堅穴建物2軒		土師器（壺）、須恵器（壺）	奈良・平安時代の堅穴建物を発見した。	

茨城県土浦市

柳買場遺跡（第2次調査）

—集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印 刷 日 平成28年9月16日

発 行 日 平成28年9月16日

編 集 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843
TEL 029-826-7111

発 行 土浦市教育委員会
〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号
TEL 029-826-1111（代表）

印 刷 株式会社 横山印刷